

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ドリトル清武		
○保護者評価実施期間	令和8年1月26日		～ 令和8年2月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和8年1月26日		～ 令和8年2月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	現在、中・高校生を中心として支援を行っている。そのため、高校(支援学校高等部)の卒業を見越した活動等の提供を行うことができる。	ドリトル清武では、週1回程度「わくわくwork」という活動の機会を設けている。これは、卒業後の支援に特化した活動の提供と共に、就労・仕事に必要と思われるスキルを学ぶことを目的としている。	コロナ禍では、就労系の事業所見学が難しかった。今後は、夏休み等の長期休暇の機会を利用して、就労系事業所だけでなく、グループホーム見学等も取り入れ、卒業後や大人になってからの選択肢を一つでも多く学ぶ機会を増やす。
2	ドリトル事業所は市内に3か所(当事業所含む)、事業所を展開している。情報共有等、様々な機会での交流を持つことで、事業所の良い点を互いに引き出し合うようにしている。	令和8年度からは、当事業所で行っているダンス活動を、他2事業所へも参加の声かけを行うことで、活動の充実を図っている。	年1回程度行っている発表会を通して、保護者様もイベントに参加できる機会を設ける。また、地域や外部の方へもイベント参加を呼びかけることで、事業所への理解を深めていくきっかけ作りを行う。
3	思春期の時期の、生徒さんの心のよりどころになりたい。	中・高校生になると、思春期や反抗期など、心が大きく成長すると共に、揺らぎが大きくなる時期となります。必要な場合には、話を聞き、生徒さんの気持ちを安心して吐き出せる場所になっていきたいと思っています。	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流の機会が少ない。	地域のイベントが土日に集中している。当事業所は土日閉所のため、地域のイベントへの参加が難しい。	事業所建物の大家さんを通して、地域の方に事業所内容への理解等のきっかけ作りとしていきたい。また、事業所が行うイベントへの参加案内も行っていく。
2	保護者様向けの相談会等の実施。	普段の送迎などの機会にお話を伺うようにしていますが、じっくりと時間をかけて相談や研修する開催などができていません。	保護者様へのアンケート等を実施し、必要な研修会などを企画することで、スタッフとだけでなく、保護者間でも互いに話をする機会を設けたい。また、個別での相談ができる場も一緒に考えていきたいです。
3			